

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075700221		
法人名	医療法人 輝寿会		
事業所名	グループホーム けいせん		
所在地	〒820-0606 福岡県嘉穂郡桂川町大字土居875番地1 Tel 0948-65-4107		
自己評価作成日	平成29年06月12日	評価結果確定日	平成29年08月01日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年07月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の明るさを活かし、アットホームで、季節の催しや様々なレクリエーションを取り入れ、入居者様を笑顔にできる楽しい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑の山と田園地帯が広がる郊外に、老人介護施設やデイサービス併設で1ユニットのグループホーム「けいせん」がある。利用者がこれまで築き上げてきた人間関係や、地域との関わりを大切に、住み慣れた地域の行事に利用者職員が参加し、ホームでの小中学生の体験学習やボランティアを受け入れ、地域交流の輪が広がっている。職員は、永年勤続のベテラン職員が多く、利用者一人ひとりに寄り添い、時間をかけて丁寧に支援し、日に日に明るく、元気な笑顔になる利用者を見守る家族は、喜びと感謝に包まれている。食事は、調理上手な職員が交代で調理し、利用者の残存能力を引き出し、料理の下拵えを手伝ってもらい、食欲増進に繋げ、利用者の健康の源になっている。利用者の重度化が進み、看取り介護の必要性を感じ、職員の介護力を強化し、家族の協力を得て、利用者の安心に繋がる終末期の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を踏まえた理念をつくり、職員全員が目にする事ができる場所に掲示し、日々念頭に置き業務にあたっている。	ホーム独自の介護サービスのあり方を示した介護理念を掲示し、職員は、理念の意義や目的を理解し、利用者一人ひとりが自分らしく生き生きと暮らせるように、利用者に寄り添い家族のような関係を築いている。また、「今日も一日『優しい心』と『笑顔』で過ごします」を職員の心得として常に意識したケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会食交流会や福祉まつりなど、地域行事に参加し、交流を図っている。	毎年、地域の小学生や中学生の職場体験の受け入れや交流が、利用者の大きな楽しみとなっている。利用者の重度化に伴い、地域との交流が難しくなっているが、併設施設の行事に出かけたり、利用者の地域の民生委員の定期的な訪問を受ける等、利用者が地域の中で生き生きと暮らせる支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の受け入れを行うなど、地域の人々に認知症の方との関わりを持って頂き、認知症について知ってもらえる機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月の1回の運営推進会議ではホームでの取り組みや入居者の状況を報告し委員の意見等を聞き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営状況や取り組み、ヒヤリハット、事故等を報告し、参加委員からは、外部の目を通した質問や要望、情報提供を受けている。出された意見は、ホーム運営や業務改善に反映させている。	参加委員の増員(地域代表や民生委員等)に取り組み、より多くの情報、意見を収集し、ホーム運営の推進を図り、認知症の勉強会や避難訓練を行う等、会議を活かした啓発活動を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、桂川町の保険環境課や地域包括支援センターの担当職員に相談するようにしている。	管理者は、ホームの空き状況や困難事例、疑問点等を行政窓口にご相談し、情報交換を行い連携を図っている。また、運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解して、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーベルを使用したり、見守りを強化する事で身体拘束や施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを基に、具体的な禁止行為を挙げて検証し、言葉や薬の抑制を含めた身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、内部研修の中で身体拘束について学び、拘束が利用者にも与える影響について職員一人ひとりが理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないように外部研修に参加したり、内部研修で学び、注意・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修などで学習し、必要に応じて話し合い活用できるようにしている。	現在、成年後見制度活用の利用者がいるので、職員は制度の重要性と内容についての理解は出来ている。資料やパンフレットを用意し、制度についての内部研修を行い、利用者や家族から相談があれば、いつでも制度の内容の説明や、申請機関へ橋渡し出来る支援体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を用い、入居に関して説明すると共に、質問等に対して理解・納得が得られるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段の様子などを伝えると共に、ご家族からの意見や要望も聞いている。	家族会を毎年2回開催し、年度計画の報告と意見要望の収集、利用者と一緒に食事を兼ねて行っている。家族からは、職員が交代で作成する手書きのホーム便りにより、利用者の暮らしぶりを伝え、家族から意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案をしやすい関係づくりや、必要に応じて職員全体での会議を行っている。	職員会議は、必要時に、その日の出勤者の参加で行われている。シャワーチェアやナースコール、玄関入り口のドア等、設備の修理や購入についての要望は、速やかに反映されている。また、毎日の申し送りの中で、職員の気づきや心配事を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。	職員の意見や提案を聴く機会として定期的に職員会議を開催し、顔を合わせて意見交換を行う事で、個々の思いや意見を引き出し、ホーム運営に活かせるような取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に4回の自己評価、上長評価を行い、個々の努力や勤務状況の把握に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を理由に採用対象から排除する事はない。また、職員の勤務については、月に3回の希望休を聞き入れ、シフトを組んでいる。	職員の休憩時間や希望休、勤務時間に柔軟に配慮し、畳敷きの休憩室で交代で休憩して、リフレッシュして働ける環境を整え、職員の異動は少なく定着している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を優先し、全員常勤職員として採用している。採用後は、職員の特長を活かした役割分担で、一人ひとりが意欲的に働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年、内部研修の中に取り入れ、学習している。	内部研修の年間計画の中で、必ず1回は人権の勉強会に参加し、職員一人ひとりの意識づけを行っている。利用者がホームの中で、安心して穏やかに生活出来る環境を目指し、尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。過去には、外部講師を招いて人権研修会を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている。 法人グループ全体での研修も、随時行なわれている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、桂川町にある3グループホームの管理者が集まり、桂川町グループホーム連絡協議会を開催している。その他、関連グループホームと合同で、職員勉強会や行事など、年に数回行なっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、ご本人の話をできるだけ多く聞き話をする事で、入居後安心して暮らして頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を傾聴し、要望等が言い易い雰囲気で作るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係機関や施設職員等で必要なサービスを検討し支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事は手伝って頂いたり、職員が知らない生活の知恵などを教わったりと、お互い支え合える関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本について何かあれば、ご家族に報告・相談し、一緒にその後の支援について考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人などが面会に来られた際は、居室にて一緒にゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	利用者の友人や知人、民生委員の面会があり、家族の了解を得て、利用者が楽しいひと時を過ごせるように支援している。また、自宅周辺の老人会の催しに参加したり、病院受診時に近所の知人と再会する等、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が悪化した場合など、早急に対策を考え、介護職員が間に入ったり、必要に応じて席替えをして少し距離を置いて頂いたり、その時々合った対応をする事で、それぞれが良い距離感で過ごして頂けるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何かあればいつでも相談して頂けるようお話すると共に、機会があれば、こちらからもご本人の様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない言葉などからも、ご本人の希望や意向を汲み取り、できる限りご本人の意向に沿った支援ができるよう努めている。	勤続年数の長い職員が多く、利用者信頼関係を築き、利用者の思いや意向を把握し、家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいる。また、思いを伝えることが難しい利用者には、職員が家族に相談したり、ベテラン職員のアドバイスを受ける等して、職員が諦めずに利用者寄り添い、表情や仕草から、思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、できるだけ多くの情報を得られるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを定期的に行い、心身の状態、残存機能などの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度、またはご本人の状態に変化が見られた時にはその都度、職員や家族の意見を聞き、作成している。	担当者会議を家族の面会に合わせて開催し、利用者や家族の希望を聴きとり、ケアマネージャーを中心に、管理者や職員も関わりながら、利用者一人ひとりのケア項目について検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月～6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態などを介護記録に記入すると共に申し送り等で、職員全員で情報を共有する事で、介護計画の見直しに役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入居者の状況に合わせ、その時々に必要な支援を行なっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加するなどし、事業所や入居者の様子や状況を区長や民生委員に知って頂く事で、協働して支援できるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医や、ご本人・ご家族の希望される病院への受診を行なっている。	利用開始時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択して貰い、現在は、ほぼ全員が協力医を受診しており、定期受診は職員が同行し、結果を家族に報告し利用者の医療情報を共有している。他科受診の初診時には家族にも同行してもらい、家族とホームが利用者を支え合う関係を築いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、関連事業所の看護師に相談し、医療行為等が必要な時はお願いしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会に行ったり、ご家族にご本人の様子を伺ったり、退院時期については、病院ソーシャルワーカーと連絡を取り合ったりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人が重度化した際については、入居時などから、本人・ご家族と話し、事業所ですることができる事を説明している。	契約時にターミナルケアについて、利用者や家族の意向を確認し、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援について説明を行い、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、利用者の終末期が安心して迎えられる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを目につく所に掲示すると共に、外部研修及び内部研修にて実践力を身に付けるよう努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行うと共に、災害時には近隣事業所との協力体制を築いている。	年2回の昼夜を想定した防災訓練を実施し、通報装置、消火器の使い方を確認し、避難経路、非常口、避難場所の確保を行っている。消防署が近隣にあるため、日頃から協力関係を築いている。また、地域に住む職員が多いため連絡網を作成し、非常時に駆けつける体制を整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語での対応を心がけている。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者一人ひとりのプライドや、羞恥心に配慮したトイレ誘導や、入浴支援に取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できず、すぐに職員にどうしたら良いのか聞かれる入居者には、ゆっくりと説明し、ご自身で考えて頂く時間をつくり、どうしたいのか伺うようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を優先し支援するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	上下のコーディネートに気をくばり、ご本人の希望に応じながら、その日の気候に合った洋服と一緒に決めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回メニューを説明し召し上がって頂くようにしている。また、テーブル拭きやお盆拭きなど、職員と入居者と一緒にやっている。	職員が交代で食事作りを担当し、利用者の嗜好を聴きながら、献立に採り入れ、重度化の利用者にも美味しく食べて頂けるように、味や食事形態にも工夫を重ね、愛情込めて美味しい食事を提供している。また、家族の協力を得て外出に出かけたり、道の駅にソフトクリームを食べに行く等、利用者が食べる興味と喜びを、引き出す取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、それを基に個々に合った味付け等で調理し提供している。一人ひとりの水分摂取量を毎日チェックする事で水分不足や摂り過ぎに注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人に合わせて口腔ケアを行なっている。 歯ブラシやうがいが出来ない入居者については、口腔ケア用のウエットティッシュを使用するなどし支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入をする事で、排泄パターンの把握に努め、一人ひとりに合わせたタイミングでのトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。オムツの方もトイレに誘導し、夜間帯も、自分で起きて来られる方については誘導し、そうでない利用者にも声掛けする等、一人ひとりに沿って対応し、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけたり、適度な運動を促すなど便秘予防に努めている。また、必要に応じ、医師に相談し下剤を処方して頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行なった際のご本人の気分や都合などを考慮し順番を決めるなどして、ご本人のタイミングに合わせて入浴して頂いている。	入浴は、基本的には週に3回であるが、毎日行えるように準備し、利用者の体調を観察しながら、利用者の希望に合わせた楽しい入浴の支援に取り組んでいる。菖蒲や柚子、香りの良い入浴剤等で季節感を演出し、入浴が楽しめるよう工夫している。現在は、入浴を拒む利用者はいない。また、入浴は利用者職員が一对一でゆっくり会話できる貴重なひとりで、利用者の思いを聴き取っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはご本人の過ごしたいように過ごして頂いているが、1日中ベッド上で過ごされているような場合は、声をかけ体調を見て、離床を促す事で、夜間十分な睡眠が取れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれどんな薬が病院から処方されているのか知るため、薬局より頂くお薬の説明書に目を通すようにしている。服薬に関しては、特に間違いがないように職員2人で確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや料理の下準備など手伝って頂いたりしている。レクリエーションは皆さんで楽しめるような内容を考えている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での外気浴やホーム周辺での外気浴を行っている。また、年に数回は普段行けないような場所にも車で出かけている。	気候の良い時期を利用して、近隣の散歩や買い物に出かけ、外気に触れる事で、利用者の気分転換に繋げている。近隣の他事業所と合同で行う花見や、家族の協力を得て、買い物や外食に出かけ、楽しいひと時を過ごし、利用者の生きる喜びに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かるようにしているが、ご本人の要望に応じ、必要なものを購入できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の草花や飾り物などを飾っている。ホーム内の温度や湿度などにも配慮し、快適に過ごして頂けるよう努めている。	職員が自宅に咲いている季節の花をホーム内に飾り、手芸の得意な職員による手作りのネームプレートが各居室のドアに下げられる等、家庭的で明るい、温かな雰囲気を作り出している。室内は清掃が行き届き、換気にも気をつけ、利用者が気持ちよく過ごせる居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫したり、席順も入居者同士の関係などを考慮し、随時検討し変更等をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など自宅で使用していた物などを持ち込んで頂き、配置場所もご本人やご家族の希望を取り入れられている。	利用者の馴染みのお気に入りの仏壇、筆筒、姿見等、利用者が大切に使用していた家具等を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して穏やかに暮らせる支援に取り組んでいる。また、入居年数の長い利用者が多く、好みの物を置いたり、壁を絵や写真で飾る等、その人らしい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、手すりも設置している。廊下など通路となるような場所には不必要なものは置かないように危険がないように配慮している。ご自身の居室がわかり易いよう入口ドアにはネームプレートを付けている。		